

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300446		
法人名	医療法人社団 友志会		
事業所名	グループホーム 森の舎(樹木の家)		
所在地	下都賀群野木町南赤塚1218-8		
自己評価作成日	平成29年	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanr.i.nsf/aHyokaTop?O

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	平成30年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

樹木の家は、入居者の認知症周辺症状の程度の差が大きく、全体的に身体介護重度の方も多くなっていく状態がある。しかし入居期間が長くなり、スタッフと馴染みの関係が続いている。又新しく入居された方には、本人の生活歴を把握し、今までの生活が継続できるように支援している。安全に十分配慮し、1人1人の個性を尊重し、日々のケアに取り組んでいる。本人が望む生活が最期まで実現できるようにスタッフがチームケアを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・3棟あるグループホームそれぞれの良さを活かし「ゆったりと楽しく」をモットーに、日々の入居者の状態に応じて、相談し合い、助言する等、職員間のコミュニケーションを円滑にし、チームケアを行なっている。
 ・同法人の病院や老人保健施設が隣接しており、医療面や専門職員との連携が取れている。重度化や急変時の対応についての相談や、協力医による定期的な往診、及びかかりつけ医受診の際の情報提供による連携等、支援体制が整っている。
 ・季節感や各地のグルメ等を参考に楽しく食事ができるように工夫している。また、毎月、給食会議を開催し、利用者の好みや体調等について話し合い、自宅での雰囲気に近い食事が提供できるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を常に目の付く場所に掲示し、地域の中でその人らしく暮らしていけるよう、ゆったりと楽しく、自由にありのままに、一緒にケア、ケアされるケアを心がけ実践している。	共に生活するものとして、入居者が自由に楽しく過ごせるよう、日々の話し合いのほか、毎月のミーティングにより事業所理念の実践について確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の文化祭に招かれたり、菊祭り、収穫祭に参加している。天気の良い日は散歩に出掛けて近所の方々と触れ合う機会を作っている。門を常に開放し、近所の方々と挨拶するように努めている。	建物と地域を隔てる垣根がなく、地域内の風景に溶け込んでおり、雪かき等をはじめとした季節ごとの作業も地域の方と一緒にやっている。地元中学校との交流も恒例となっており、世代を超えた交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域の行事等に参加し、地域の人々に認知症になっても生き生きと生活できることを実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活内容を報告し、運営推進委員会で話し合った事を活かしている。町の話題や情報が話し合いを通じて得られている。	町の担当課をはじめ、地域包括支援センター、家族、区長等の参加により開催されている。地域情報の共有を図り、また、入居者支援に関わるアイデア等をもらい、入居者が自宅と同じように日々の生活が送れるような支援に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	避難訓練の協力を得ている。また認知症サポーター養成講座を町と連携し行っている。運営推進委員会の町職員と気軽に日常の話題について話し合いが出来ている。	職員がキャラバンメイトの資格を有しており、町と連携して小学生をはじめとした地域住民への講座を開催している。また、町職員と気軽に日常の話題について話し合える関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と共に、安全対策、身体拘束廃止委員会にて認識しケアをしている。玄関に鍵をつける時は、家族に説明を行なっている。	様々な研修を通して職員の意識向上を図っている。併設施設と身体拘束廃止委員会を設け、入所時期や身体状況に応じたケアに取り組んでいる。行動の把握方法として、センサーマットの利用等見守りを重視した対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を行なっていて虐待は絶対ないようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	本人や家族の希望に応じて、権利擁護制度を活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等には、利用者の権利、義務が明確に示されており、入居者とその家族にとって分かりやすい内容であるように、十分に説明し同意を得ている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の際、意見や要望を聞いており、玄関に意見箱を設置している。意見や要望は、職員同士で対策を検討し、今後のケアサービスに活かしている。苦情窓口は管理者であるが、併設老健の相談員も対応している。	年3回家族会を開催し、一人ひとりの表情や行動をスライド写真で家族に知って貰う機会を設けている。その際意見や要望を聞くようにしている。個々人の課題も、共有出来ることは職員で話し合い、運営に反映するようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のペースでミーティングを行ない、随時3棟合同ミーティングを行なっている。	毎月のミーティングや管理者との面談により、職員の意見や提案を把握するようにしている。また、職員間のコミュニケーションは円滑であり、日々の入居者の状態に応じた支援について、相談したり、助言等が行われている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として他の施設と同様に行われている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は入職時に必ず新人研修を受ける。外部研修に参加したり、定期的に法人内の勉強会に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内のグループホーム協会で勉強会を作り、ネットワーク作りはできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人と必ず談話し、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	統括マネージャーが窓口となって、相談援助を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を十分に考慮し、初期に面談した内容を活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事や季節の慣わしについて話を聞き、教えてもらったり、洗濯物を一緒にたたんで頂いたり、家族の一員という意識をもてるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の話をいろいろ聞いたり、食事介助や見守りをしてもらっている。また、病院受診にも付き添ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会もあり、関係が途切れないように支援している。	入居者一人ひとりの心身状態が安定する様に、家族との関係や、馴染みの人との関係が維持出来るように支援している。誕生会等では地域の飲食店に行き皆で楽しむなど、地域との関係も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おしぼり作り、洗濯物たたみ等を一緒に行ない、談話しながら入居者同士が関わり合えるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	途中退居になった場合でも、入院・他施設入居にスタッフが訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に意向を伺い把握に努めている。意志疎通が困難な方は、傾聴重視し、表情を見ながら、これまでの生活を通して本人本位を判断している。	言葉等による自己表現が少ない入居者には、日々の話題について話しかけたり、アイコンタクトや手に触れたりすることで、暮らしの中での思いに気づくようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴など常に把握出来る様に心がけ、その人らしさを再現できるように、入居者の日頃の様子を家族の方に報告し情報を得るように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、定期的なミーティング・ケアプラン等で職員も情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個人の特徴を、本人や家族等から収集しケアプランを作成している。家族に説明し同意を得ている。	本人・家族の意向や、支援状況を基に計画を立てている。生活の場として、入居者が役割意識を持てるように工夫したり、日々の生活の中にもちょっとした変化が感じられるアイデアを盛り込むようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果などを個別に記録して、情報を共有しケアプランやケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科が住診したり、家族の希望や助言を受けている。また2週に1度訪問診療、訪問看護を利用している。又、併設施設のリハビリスタッフに身体機能の変化などの評価や相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアと協力して入居者の支援に関わっている。ボランティアの定期的な訪問(畑やレクリエーション)も続いており、行事の芸能ボランティア訪問もとても楽しみにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院と連携しており、本人と家族の同意のもと、2週に1度主治医による往診がある。他医療機関受診も家族の希望を尊重している。	系列の医療機関と連携しており、協力医による定期的な往診がある。かかりつけ医受診の際は、定められた様式によるバイタル情報等を家族に渡し連携を図ると共に、安心して受診できるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の看護師、訪問看護師と連携しており、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを気軽に相談できている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し、早期退院できるように支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や訪問看護・職員・家族で方針を共有し変化に備えて検討や準備を行なっている。家族・本人の意向を重要視し尊重している。	医療機関や併設の老人保健施設と連携しており、重度化や急変時には、適宜相談し、適切な支援環境への移行等検討している。職員・本人・家族で方針を共有するように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などに参加して訓練を行い職員間でも報告し合い、実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定で、3ヶ月に1度、避難訓練を行っており地域住民も参加している。隣の老健施設職員・児童養護施設職員も駆けつけてくれる。地震発生時対応マニュアルも作成している。避難ルートや場所、常備品の確保も出来ている。	年3~4回の避難訓練等を実施し、全ての職員が訓練に参加できるよう勤務に配慮している。地域との協力関係もあり、東日本大震災時には避難受入れを実施している。	専門職としての知識や災害時の経験を活かし、避難所や相談に応じる拠点としてPRする等、地域との双方向的な、より積極的な関係構築を期待している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は充分配慮して入居者の気持ちを尊重し、一人ひとりのプライバシーを損ねない対応をしている。	一人ひとりが自分の時間を大切に出来るように、音に敏感に反応する人や入居者の相性等に配慮した支援をしている。言いたいことが言えるような雰囲気、楽しく生き生きと生活できるように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや、希望を表し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師が訪問し理髪している。身だしなみを整えおしゃれも話題にして本人が意識できるようにする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事をする為に、安心して食事出来るような雰囲気・環境作りをしている。季節、年間行事、誕生日会や日々のメニューを楽しんで頂けるように支援している。職員も共に食事をしている。食事の片付けは一緒にやっている。	季節感のあるメニューのほか、全国各地のグルメ等、興味を持って楽しく食事ができるように工夫している。また、毎月、給食会議を開催し、入居者の好みや体調等について話し合い、自宅での雰囲気似た食事が提供できるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った摂取量を把握し、食事量の少ない方は好みのジュース・果物・ヨーグルト等に対応している。管理栄養士が献立を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアで、口腔内がキレイに保てるよう、一人ひとりに合わせた方法でケアをおこなっている。自立で口腔ケア・義歯の管理をおこなっている方には、定期的に口の中の観察や、状態によっては歯科医師・歯科衛生士の指導の下ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄状態を把握して、一人ひとりの能力やパターン、習慣を活かしたトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	日々の生活の中で入居者毎の排泄リズムを確認し、プライドに配慮した誘導・声かけ等を行っている。また、オムツやパットについての勉強会を開催し、より快適に過ごせるように職員間で話し合いをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材、牛乳、ヨーグルトなどを摂取し、体調を整えており、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人ひとりの体調や意欲に合わせて入浴を楽しめるように支援している。身体レベルに合わせて、一般浴、機械浴にて入浴を行なっている。	本人の希望に応じ、安全に楽しく入浴できるように、時間や回数、入浴剤の使用等、柔軟に対応している。心身状態に応じて、関連施設の機能を活用し、重度化しても入浴が出来るように、個々の状況に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じてゆったりと休息できるよう時間を作っている。安心して休めるようコミュニケーションを図り、その都度見守りを行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表により把握している。常に確認できるように日々の記録と一緒に並べ、新しいものに随時更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道や生花、体操、歌などのレクリエーションを日々取り入れ、笑顔を多く作り気分転換が図れるよう支援している。家事手伝いなど役割を引き出し、やりがいや満足感が得られるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けている。月1回のお楽しみ会で外出の機会を設け、週1回程度買い物やドライブ等へ出掛けたりしている。	行事やイベントだけでなく、天候や利用者の体調等に併せて、随時、散歩に出かけている。お楽しみ会でドライブや外食に出かけたり、週1回程度買物で外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は、本人が管理している。その他希望に合わせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望があれば、職員が電話番号を押し、電話の内容が聞こえないように部屋も提供する。手紙の代読も行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、会話のトーン、照明の強度、陽射し、温度調節等、不快や混乱を招かないように調節している。季節の花を飾るなど居心地良く過ごせるように支援している。	自宅にいたときと同じような自分の時間・空間、場所で過ごせるように、音や陽ざし、季節感等の生活環境に配慮している。ゆったりと、落ち着いて過ごせるように工夫し支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂、カウンターがあり、入居者同士で談話したり、一人で読書やぬり絵、折紙をしたり、コーヒーを飲みながら職員と会話するなど、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、居心地の良い場所となっている。	使い慣れた家具や生活用品のほか、写真等飾ることで、家族とのつながりを感じ、安心して過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱、失敗を防ぐように、トイレや廊下に貼り紙、居室に表札を作ったり、安全かつ自立した生活が送れるように支援している。		